

## 一次調査の結果（２） ～難治病態を有する症例の内訳（１年間）～

- 難治病態を有する症例は各疾患平均12.2%。
- 若年性皮膚筋炎、混合性結合組織病、血管炎症候群、線維筋痛症は難治例の頻度が高かった。
- 難治病態となる原因について各疾患ごとの解析が必要と考えられた。

# 一次調査の結果 (3)

～ 死亡症例の内訳 ～

## ・ 症例の内訳

- |              |       |         |
|--------------|-------|---------|
| ①若年性特発性関節炎   | : 14例 | (1.1%)  |
| ②全身性エリテマトーデス | : 3例  | (0.5%)  |
| ③若年性皮膚筋炎     | : 12例 | (4.8%)  |
| ④混合性結合組織病    | : 4例  | (4.3%)  |
| ⑥小児期血管炎症候群   | : 2例  | (0.01%) |

## 一次調査の結果（まとめ）

- 難治症例は、平均1.2%であった。
- 疾患による難治症例・死亡例の頻度に、差異を認めた。
  - 若年性皮膚筋炎、混合性結合組織病では死亡例の頻度が高かった。
- 難治症例となる原因について、各疾患ごとの解析が必要と考えられた。

## 今後の予定

- 小児リウマチ性疾患における難治症例と死亡症例について、
  - 各症例ごとの臨床所見の検討
  - 難治病態の症例、死亡症例の病態解明
  - 諸外国の症例との比較
- 二次調査（個々例の詳細調査）
- 症例検討会議の開催
- 早期診断・治療ガイドラインの作成